

内 容

1. 「海と船の企画展」への支援（22館24企画展）

支援金合計額：67,919,012円

- ①名 称：第22回特別展 環北太平洋の文化Ⅱ 世界で一番ダイナミックな海 ベーリング海に生きる人びと 舞台は極北のベーリング海 自然も文化も歴史もひとめぐり チュクチもエスキモーもアリュートも 日本人も大活躍

主催者：北海道立北方民族博物館

開催時期：平成19年7月14日（土）～10月8日（月）

場 所：北海道立北方民族博物館

入場者数：6,984名

内 容：古い時代から交通の要所として人や物がダイナミックに行き交ったベーリング海をテーマに、ベーリング海自体のほか、周辺に暮らす民族の文化にあわせ、日本とベーリング海の間わりについて紹介した。

支援金額：8,120,000円

- ②名 称：企画展「海山川の記憶—地図と写真に刻まれたふるさと—」

主催者：余市町教育委員会

開催時期：平成19年8月21日（火）～10月14日（日）

場 所：余市水産博物館

入場者数：852人

内 容：余市町にゆかりの古地図や写真記録などで、幕末から近現代までのふるさとの記録や懐かしい記憶を呼び覚ます関連資料を紹介した。

支援金額：1,702,260円

- ③名 称：企画展「よみがえれ北前船 北国の海運と船展」

主催者：青森県立郷土館

開催時期：平成19年8月15日（水）～9月17日（月）

場 所：青森県立郷土館

入場者数：3,798名

内 容：北日本海で江戸時代前期に活躍した北国船や、和船の代表である弁才船、さらに明治時代以降使用された洋式船に至るまで、海運を支えた「船」について、地域的な特徴、時代による変遷などを、船絵馬、船図面、絵図、写真、船模型、船道具などの実物資料と、構造図解パネルや近年復元建造され帆走実験が行われた「みちのく丸」の帆走記録などを通して、わかりやすく紹介した。

支援金額：4,073,215円

④企画展「客員研究員 魚魚っとさかなクンおしえて！！館山湾の魚」

主催者：千葉県立安房博物館

開催時期：平成19年7月14日（土）～9月2日（日）

場 所：千葉県立安房博物館

入場者数：13,211名

内 容：客員研究員でイラストレーターのさかなクンが魚類の研究成果で独自の境地を切り開いたイラスト作品を中心に紹介した。特にイラストを作成するまでの館山湾での海底・海中・海面観察の研究活動を密着取材し、その成果を紹介した。

支援金額：1,314,750円

⑤企画展「アワビー食と美ー」

主催者：千葉県立安房博物館

開催時期：平成20年2月2日（土）～3月23日（日）

場 所：千葉県立安房博物館

入場者数：8,202名

内 容：南房総地域の特産品である海産物「アワビ」の歴史、民俗、食文化に関する資料並びに螺鈿細工等のアワビの貝殻を使用した美術工芸品を紹介した。

支援金額：581,350円

⑥企画展「化石が語る熱帯の海—1600 万年前の日本—」

主催者：千葉県立中央博物館

開催時期：平成19年6月30日（土）～9月2日（日）

場 所：千葉県立中央博物館

入場者数：37,631人

内 容：新生代新第三紀中新世（約2,400万年前～600万年前）の日本海の形成・拡大と海洋気候の著しい温暖期に焦点をあて、その古生物を紹介した。また、ダイナミックな地殻変動が、日本のほぼ全域に多彩な熱帯・亜熱帯海生動物の繁栄をもたらした点を、多くの化石をもとに紹介した。

⑦名 称：平成19年度マリンサイエンスギャラリー「オスメスの不思議—海の動物の世界から—」

主催者：千葉県立中央博物館分館 海の博物館

開催時期：平成20年2月23日（土）～3月31日（日）

場 所：千葉県立中央博物館分館 海の博物館

入場者数：8, 213名

内 容：さまざまな海の動物の雌雄性を紹介し、性の多様性・不思議さを知ってもらうため、雌雄の見分けがつかないもの、全く姿が異なるもの、雌雄同体・性転換等を紹介し、併せて映像を中心に、様々な繁殖行動等も紹介した。

支援金額：994, 344円

⑧名 称：企画展「漁師の知恵VSさかなの気持ち」

主催者：千葉県立中央博物館 大利根分館

開催時期：平成19年5月30日（水）～6月28日（木）

場 所：千葉県立中央博物館 大利根分館

入場者数：9, 222名

内 容：利根川下流域で営まれてきた伝統的な漁法を明治から昭和にかけての特徴的な漁具類などで紹介し、併せて漁師とさかなの知恵比べも紹介した。

支援金額：1, 113, 000円

⑨名 称：企画展「天狗への祈り―大杉神社と利根川水運―」

主催者：千葉県立関宿城博物館

開催時期：平成19年10月18日（木）～12月2日（日）

場 所：千葉県立関宿城博物館

入場者数：33, 075名

内 容：利根川流域など関東地方を中心に信仰されている「アンバ大杉信仰」を歴史資料や写真資料及びパネルや図で紹介し、その信仰が各地に広がった様子を利根川水運や出開帳(寺院以外の場所に出張して行う開帳)との関わりを通して明らかにし、現在も信仰されている様子を紹介した。

支援金額：1, 155, 000円

⑩名 称：企画展「船と船大工 湊町新潟を支えた木造和船」

主催者：新潟市歴史博物館

開催時期：平成19年9月15日（土）～11月11日（日）

場 所：新潟市歴史博物館

入場者数：5, 629名

内 容：新潟市のある蒲原平野では、有史以前から船が盛んに利用されていたが、木造船が活躍していた時代、同地域で小型の農業用の舟から大型の木造洋船までさまざまな船がつくられていたことを実物の舟や模型、グラフィック

クパネルで紹介した。また、造船業を支えていた船大工の仕事の道具や暮らしぶり、技術の習得についても、実物資料や写真パネルを用いて紹介した。

支援金額：2,689,103円

⑪名 称：企画展「漂着物～水辺のゴミから環境を考える～」

主催者：碧南海浜水族館・碧南市青少年海の科学館

開催時期：平成20年1月2日（水）～2月11日（月）

場 所：碧南海浜水族館・碧南市青少年海の科学館

入場者数：11,158名

内 容：近年、問題になっている川や海などの水辺環境について地元の川や海で採取されたゴミや日本各地の砂浜などに打ちあがる様々な漂着物を題材にして環境問題から自然科学、さらには芸術性を秘めていることなどを写真や映像、解説パネルなどを使い幅広く紹介した。

支援金額：1,000,000円

⑫企画展「人と湖の共生を考える学校サテライト博物館」

主催者：滋賀県立琵琶湖博物館

開催時期：平成19年9月25日～10月5日

場 所：野洲市立野洲北中学校

入場者数：590名

内 容：企画展やギャラリー展など展示の終わった標本ならびに展示物等を学校へ貸し出し「人と湖の共生を考える学校サテライト博物館」を設け、博物館と学校との交流をより強めながら県内全体として博物館機能の強化を図り、人と湖の係わりを紹介した。

主催者：滋賀県立琵琶湖博物館

開催時期：平成19年10月22日～平成20年2月15日

場 所：湖北町立朝日小学校

入場者数：741名

内 容：同 上

支援金額：1,755,285円

⑬名 称：平成19年度郷土資料展示室特別展「米穀肥料商廣海家と泉南地域」

主催者：貝塚市教育委員会 社会教育課

開催時期：平成19年9月1日（土）～10月21日（日）

場 所：貝塚市郷土資料展示室

入場者数：524名

内 容：貝塚市指定文化財廣海家文書の紹介を中心に、幕末から近代にかけて貝塚寺内の諸色問屋として活躍した廣海家の歴史と貝塚寺内を中心とした商家と地方との関係、また、北前船を利用した廻船問屋の活躍と泉南地域の地域経済の様相を紹介した。

支援金額：884,644円

⑭名 称：企画展「スナメリたちのすみ海・大阪湾」

主催者：みさき公園

開催時期：平成19年5月16日（水）～5月30日（水）

場 所：みさき公園

入場者数：23,547名

内 容：都市部に近い海の大阪湾に生息する世界最小のクジラのなかま「スナメリ」の生態や人のかかわりを画像やパネル・標本などで大阪湾岸住民に紹介し、身近な海の大切さを訴えた。また、少しでも多くの住民に知ってもらえるよう巡回展示方式とした。

主催者：みさき公園

開催時期：平成19年6月2日（土）～7月8日（日）

場 所：きしわだ自然資料館

入場者数：2,296名

内 容：同 上

主催者：みさき公園

開催時期：平成19年7月21日（土）～9月2日（日）

場 所：海遊館

入場者数：529,800名

内 容：同 上

主催者：みさき公園

開催時期：平成19年3月1日（土）～3月30日（日）

場 所：貝塚市立自然遊学館

入場者数：7,791名

内 容：同 上

支援金額：1,376,160円

- ⑮名 称：企画展「神戸開港140年記念 夏休み親子はくぶつかん ―みなと神戸のれきしにタイムトラベル」

主催者：神戸市立博物館

開催時期：平成19年7月21日（土）～9月2日（日）

場 所：神戸市立博物館

入場者数：16,622名

内 容：原始から現代まで、みなとを中心に発展してきた神戸の歴史について館蔵資料を中心に子供向けに親しみやすく紹介した。通史でみる展示だけではなく「旅」「映画」「音楽」など関連資料を紹介するコーナーを設けた。また、昭和初期の神戸港などを撮影したフィルムと現在の様子を編集した記録映像を会場で上映したほか、1階ホールに臨時的教室を設け、親子で楽しむ体験講座を行った。

支援金額：3,958,680円

- ⑯名 称：企画展「描かれた船 一室乃津 賀茂神社の文化財―」

主催者：たつの市立龍野歴史文化資料館

開催時期：平成20年2月8日（金）～3月23日（日）

場 所：たつの市立龍野歴史文化資料館

入場者数：2,410名

内 容：蘭船絵馬を中心に南蛮船、中国船、帆船など様々な形態の船を国内に残る絵画資料から紹介するとともに、賀茂神社に残された絵馬を紹介した。

支援金額：4,265,000円

- ⑰名 称：第25回特別展 刺胞動物展―サンゴやクラゲのふしぎ大発見―

主催者：和歌山県立自然博物館

開催時期：平成19年7月21日（土）～9月2日（日）

場 所：和歌山県立自然博物館

入場者数：25,867名

内 容：クラゲとポリプの世代交番を行うさまざまな刺胞動物の生体展示を通して生物の多様性と生命の神秘性を紹介した。また、欧米の近代探検調査航海やお雇い外国人教師が日本から持ち去った八放サンゴ標本の里帰り展示及び昭和天皇コレクション等の展示を通して自然博物館が自然史学に貢献してきた役割を紹介した。

支援金額：6,765,536円

⑱名 称：企画展「呉と潜水艦－潜水艦の研究開発と建造拠点・呉－」

主催者：呉市商工観光部海事歴史科学館

開催時期：平成19年4月27日（金）～6月18日（月）

場 所：呉市海事歴史科学館

入場者数：69, 194名

内 容：明治時代末期に日本へ潜水艦技術が輸入されて以降、研究開発と生産の中心地となった呉を通して潜水艦の原理・機能と役割から試行錯誤の歴史までを写真及び映像のほか、実物資料及び体験型模型と併せて紹介した。

支援金額：6, 880, 000円

⑲名 称：企画展「君と竜宮城へ ―知られざる深海への旅―」

主催者：萩博物館

開催時期：平成19年7月7日（土）～9月2日（日）

場 所：萩博物館

入場者数：26, 408名

内 容：萩は「竜宮城（深海）からの使者」と呼ばれる魚がよく出没する全国屈指の地であることから、日本近海における萩の海洋環境の特徴を認識してもらうとともに、萩にしばしば出没するこれらの魚たちの謎を、暗幕やスポットライトなどで臨場感を演出した8つのゾーンを巡りながら解き明かしていく展示で紹介した。

支援金額：3, 046, 910円

⑳名 称：企画展「海に開かれた都市～高松―港湾都市900年のあゆみ～」

主催者：香川県歴史博物館

開催時期：平成19年10月13日（土）～11月25日（日）

場 所：香川県歴史博物館

入場者数：6, 910名

内 容：城下町を母体にすると考えられてきた高松の歴史は、中世の港町・野原に始まるのが、最近の発掘と文献調査から分かってきた。企画展では中世港町としての賑わいを様々な資料から示し、新たな歴史像を広く県民に紹介した。

支援金額：3, 340, 050円

㉑企画展「瀬戸内海をクジラが泳いだ」

主催者：香川県歴史博物館（分館 瀬戸内海歴史民俗資料館）

開催時期：平成19年7月21日（土）～9月2日（日）

場 所：香川県歴史博物館

入場者数：6, 162名

内 容：瀬戸内海沿岸やその周辺地域に残る鯨に関わる資料を紹介し、和歌山県太地や西海捕鯨、南氷洋捕鯨に関わった瀬戸内海漁民の活動についても紹介した。企画展では展示期間が夏休みであることを考慮し、子どもにも理解しやすい内容とした。

支援金額：3, 013, 125円

⑳名 称：開館2周年記念特別展 日蘭修好150周年記念事業「勝海舟と幕末長崎」

主催者：長崎歴史文化博物館

開催時期：平成19年11月3日（土）～12月9日（日）

場 所：長崎歴史文化博物館

入場者数：9, 373名

内 容：日本近代化を象徴する施設として設置された「長崎海軍伝習所」に焦点を当て、長崎と海軍の関係、軍艦補修や医学伝習などの近代施設について紹介した。また、長崎海軍伝習所に参加した伝習生のなかでも勝海舟をターゲットにし、勝海舟と長崎の関係、長崎発日本近代化を再認識してもらう展示とした。

支援金額：4, 330, 000円

㉑名 称：企画展「黒潮の食文化－南薩摩“黒潮の恵みと海を渡った食・器”－」

主催者：南さつま市坊津歴史資料センター輝津館

開催時期：平成19年10月6日（土）～平成20年1月14日（月）

場 所：南さつま市坊津歴史資料センター輝津館

入場者数：3, 410名

内 容：企画展では「黒潮の食文化」をキーワードに、海がもたらす南薩摩の食文化について、食材（捕獲法含む）・調理・食器等の多角的な視点で紹介した。また、食料供給基地としての海がもたらす「黒潮の食文化」の未来や無限の可能性なども含め、日本国土を取り巻く「海」が形成する日本の「食」文化の基層についても紹介した。

支援金額：1, 285, 000円

㉒名 称：企画展「古代のうるま市のひみつ～海の恵みとその交流～」

主催者：うるま市立海の文化資料館

開催時期：平成19年7月15日（日）～11月30日（金）

場 所：うるま市立海の文化資料館

入場者数：11,806名

内 容：うるま市各地では考古学的発掘調査した遺跡（貝塚等）が多く発見され、資料館の収蔵庫や施設の倉庫に保管されている資料（遺物・報告書等）を本企画展で一挙に公開し、沖縄・うるま市の歴史・民俗の海洋文化に焦点をあて、海からみた新たな沖縄の歴史・文化を多くの県民や市民に紹介した。

支援金額：3,381,000円